

シニア世代の介護が必要になった時の住まいに関する意識調査

—『リフォーム』と『住み替え』 介護時の自宅はどうする？—

2009年3月5日

株式会社ジー・エフ www.gfnet.co.jp
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-20-1
電話:03(5978)2261 FAX:03(5978)2260

株式会社ジー・エフ（本社：東京都文京区、代表取締役社長：岡田博之）は、自社が保有する電話調査モニター世帯を対象に、「シニア世代の住み替え」に関する意識調査を実施しました。調査手法はアウトバウンドIVRによる電話調査。調査期間 2009年2月23日(月)、および3月2日(月)の2日間において、1,475世帯からの有効回答を得ることができました。

◆ 終の棲み家は？「自宅派 55.2%」、「施設派 44.8%」

「介護が必要となった場合どちらで過ごしたいと思いますか？」と質問したところ、「自宅」が55.2%、「介護福祉施設」が44.8%と、「自宅派」の方が10.4%多い結果となりました。男女別にみると、男性の「施設派」が33.7%、女性が50.5%と、女性の住み替え意向の方が高くなりました。

◆ 家庭内での老後対策、「バリアフリー化などのリフォーム済み」が28.6%

「自宅派」の方のみ、「家庭内で老後の対策をされていますか？」と質問したところ、「バリアフリー化などのリフォーム済み」が28.6%という結果となりました。年代別にみると、高齢世代ほどリフォームのニーズが高いことがわかりました。

◆ 住み替えを検討している施設について、女性は「老人ホーム」よりも「高専賃」

「施設派」の方のみ、「検討してみたい施設の種類はどれですか？」と質問したところ、「老人ホーム」(10.3%)に比べ、「高専賃」(20.9%)の方が10.6%多い結果となりました。男女別にみると、男性の「老人ホーム」(14.2%)が、女性(8.9%)に比べて5.3ポイント高く、「高専賃」で見た場合には、男性(18.9%)に比べ、女性(21.5%)が2.6ポイント高い結果となりました。

◆ 住み替え時の自宅活用方法、「自宅を家族に残したい」が58.2%

施設を検討している方のみ、「住み替え時に自宅をどうしますか？」と質問したところ、「自宅を家族に残したい」という回答が58.2%と最も多く、「売却して住み替え費用に充てる」が19.8%、「賃貸住宅として人に貸す」が5.9%、「土地活用で運用」が3.4%という結果となりました。また、住み替えの検討時期については、単身世帯ほど検討時期が早くなる状況がうかがえました。

※本レポートについて、当社の許可なく無断転載・複製を禁じます。本レポートの転載、および一部引用が必要な場合には、弊社までご連絡ください。

株式会社ジー・エフ シニアリサーチ担当

調査概要

- ◇ 調査対象 : 東京都内に在住するGF電話調査モニター世帯
- ◇ 標本数 : 6,000件 (接続 4,884件)
- ◇ 有効回答件数 : 1,475件 (接続対比 30.2%)
- ◇ 標本抽出法 : GF・RTD (ランダム・テレフォンナンバー・ダイアリング) 方式
- ◇ 調査方法 : アウトバウンドIVRによる電話調査
- ◇ 調査時期 : 平成21年2月23日(月)18:00~19:00、3月2日(月)17:00~20:00
- ◇ 調査主体 : 株式会社ジー・エフ くらしの情報局世論調査センター

- ◇ 質問項目
 - 1. 介護時の住まいについて --- p. 3
 - 2. 自宅で安心して過ごすために必要なこと (「自宅派」のみ) --- p. 5
 - 3. 家庭内での老後対策 (「自宅派」のみ) --- p. 6
 - 4. 検討してみたい施設の種類について (「施設派」のみ) --- p. 9
 - 5. 住み替え時の自宅活用方法 (「施設派」で検討している方のみ) --- p. 11
 - 6. 住み替えの検討時期について (「施設派」で検討している方のみ) --- p. 13

調査結果

- ◇ 男女別での構成比は、男性 34.0%、女性 66.0%。
- ◇ 年代別では、30代以下 4.6%、40代 4.9%、50代 13.8%、60代 30.3%、70代 33.6%、80代以上 12.9%となり、60代~80代以上からの回答が、7割以上を占める結果となりました。

表1 性別

	件数	構成比
男性	501	34.0%
女性	974	66.0%
合計	1,475	100.0%

表2 年代

	件数	構成比
30代以下	68	4.6%
40代	72	4.9%
50代	203	13.8%
60代	447	30.3%
70代	495	33.6%
80代以上	190	12.9%
合計	1,475	100.0%

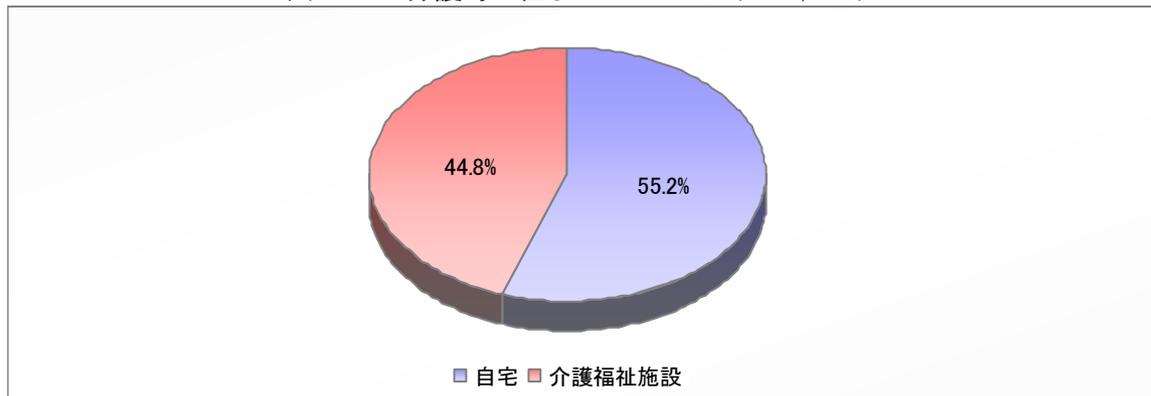
表3 世帯人数

	件数	構成比
1人住まい	164	11.1%
2人住まい	551	37.4%
3人住まい	344	23.3%
4人住まい	210	14.2%
5人以上	206	14.0%
合計	1,475	100.0%

1.1 介護時の住まいについて —「自宅派」と「施設派」で 10.4%の差—

- ◇ 「ご自身に介護が必要となった場合、どちらで過ごしたいと思いますか？」と質問したところ、「自宅」が 55.2%、「介護福祉施設」が 44.8%と、「自宅派」の方が 10.4%多い結果となりました。

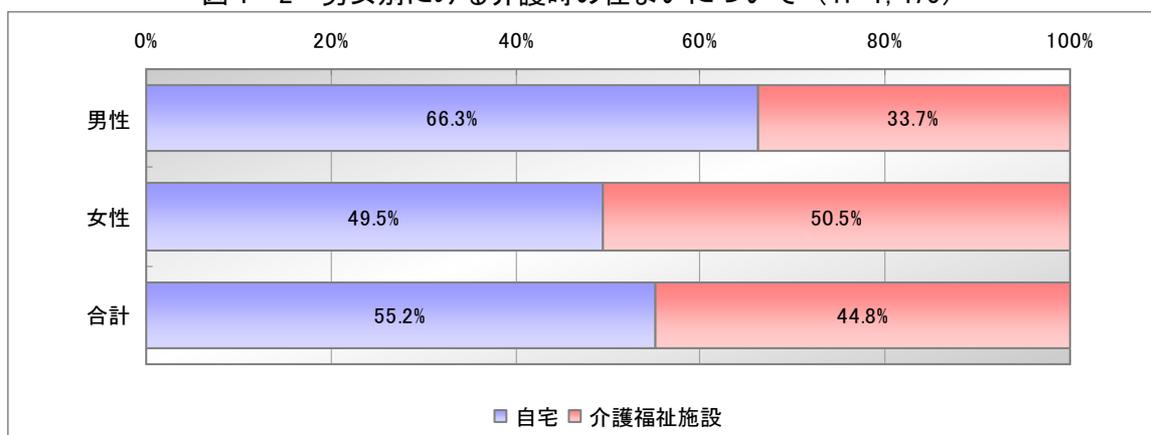
図 1-1 介護時の住まいについて (n=1,475)



1.2 男女別にみる介護時の住まい —女性は住み替え志向—

- ◇ 男女別に介護時の住まいについてみると (図 1-2)、男性の「自宅派」が 66.3%、女性の「自宅派」が 49.5%と、女性に比べ男性が 16.8 ポイント高い割合を示しました。
- ◇ 反対に、女性の「施設派」が過半数を超えており、男性と女性で住み替え意識が異なることがわかります。

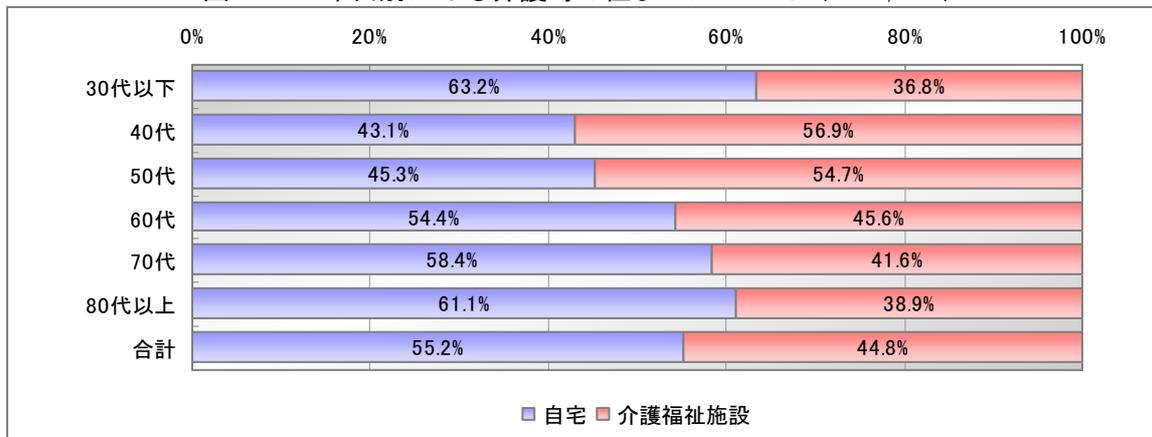
図 1-2 男女別にみる介護時の住まいについて (n=1,475)



1.3 年代別にみる介護時の住まい — 中年層で多い「施設派」—

- ◇ 年代別に介護時の住まいについてみると（図 1-3）、40代での「施設派」が多く、年代が高くなるほど「自宅派」の割合が多くなっていることがわかります。
- ◇ これより、高齢世代では「自宅派」が多く、中年層では「施設派」が多いということがわかります。
- ◇ また、30代以下での「自宅派」が多く、30代ではまだ「終の棲み家」についての実感が湧かない状況がうかがえます。

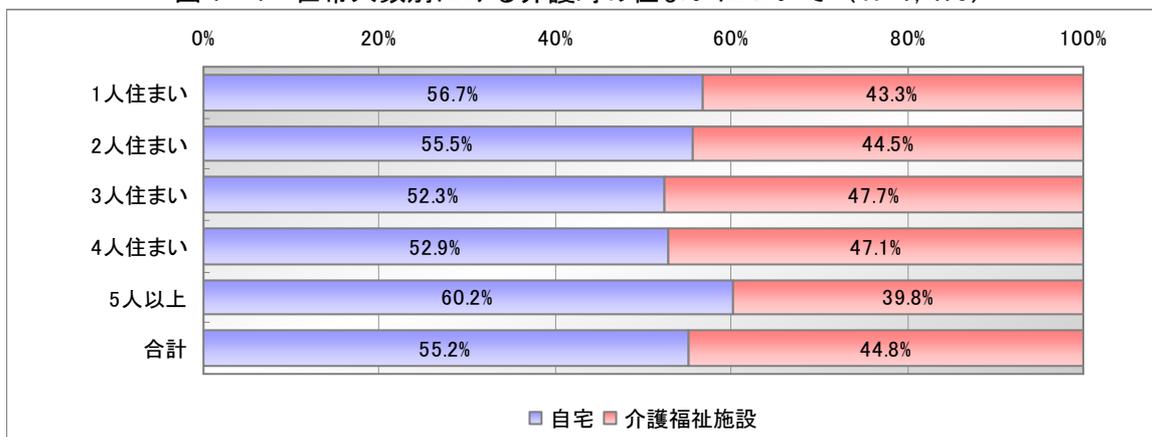
図 1-3 年代別にみる介護時の住まいについて (n=1,475)



1.4 世帯人数別にみる介護時の住まい — 単身世帯の「自宅派」が 56.7%—

- ◇ 世帯人数別に介護時の住まいをみた場合には（図 1-4）、5人以上世帯での「自宅派」が 60.2%と、最も高い割合を示しました。家族世帯では、介護の人手の多さや、いざという時に安心という状況がうかがえる結果となりました。
- ◇ しかしながら、単身世帯での「自宅派」が 56.7%と 2 番目に多くなっていることが見て取れます。

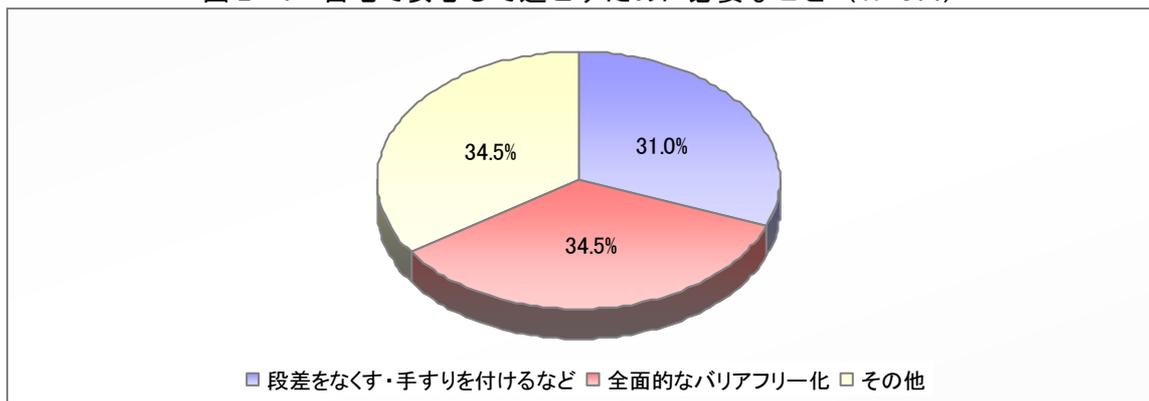
図 1-4 世帯人数別にみる介護時の住まいについて (n=1,475)



2.1 自宅で安心して過ごすために必要なこと —リフォーム意向が65.5%—

- ◇ 「自宅派」の方だけに、「自宅で安心して過ごすために必要なことは何だと思えますか？」と質問したところ（図2-1）、「段差をなくす・手すりを付けるなど」が31.0%、「全面的なバリアフリー化」が34.5%と、リフォーム意向が合計65.5%という結果となりました。

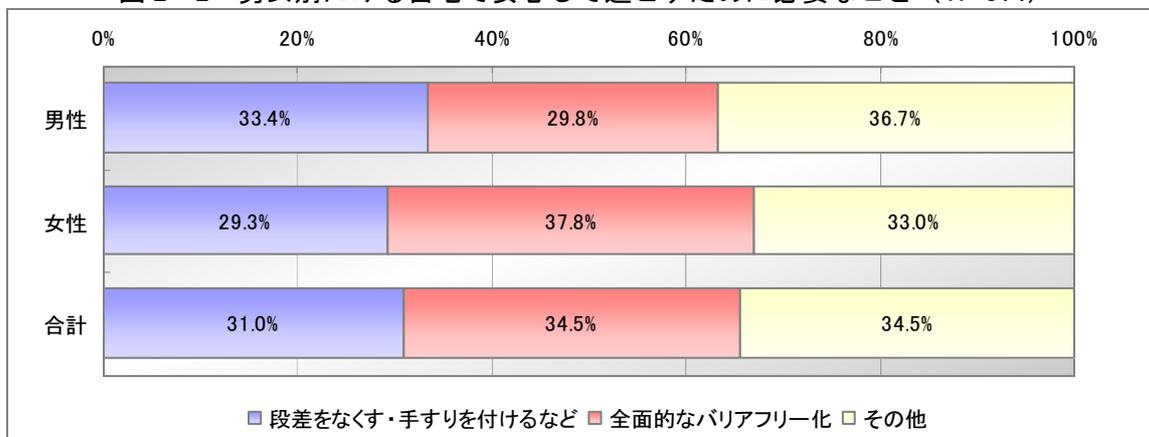
図2-1 自宅で安心して過ごすために必要なこと（n=814）



2.2 男女別にみる自宅での安心対策 —女性で高い「全面バリアフリー」—

- ◇ 男女別に、自宅で安心して過ごすために必要なことをみると（図2-2）、「段差をなくす・手すりをつけるなど」の回答項目において、女性（29.3%）に比べ、男性（33.4%）の方が4.1ポイント高い結果を示しました。反対に、「全面的なバリアフリー化」の回答項目においては、男性（29.8%）に比べて女性（37.8%）が8.0ポイント高くなっています。
- ◇ 全体的にみると、男性に比べ女性のリフォーム意向が高いこと結果を見て取れました。

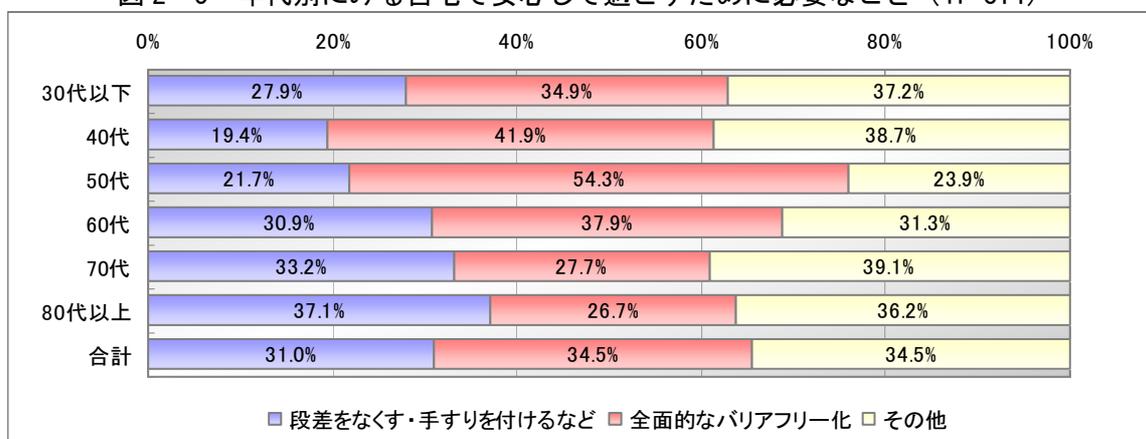
図2-2 男女別にみる自宅で安心して過ごすために必要なこと（n=814）



2.3 年代別にみる自宅での安心対策 —50代の「全面バリアフリー」が過半数—

- ◇ 年代別に自宅での安心対策をみると（図 2-3）、50代において「全面的なバリアフリー化」（54.3%）という回答が、他の年代に比べて高い割合を示していることがわかります。続いて、40代の「全面的なバリアフリー化」（41.9%）が2番目に高い割合を示しており、40代～50代での「全面バリアフリー」意向が高いことがわかります。
- ◇ 反対に、「段差をなくす・手すりを付ける」の回答項目でみた場合には、80代以上（37.1%）での回答割合が最も多く、続いて70代（33.2%）の回答割合が多くなっています。これより、高齢世帯では、「全面リフォーム」よりも「部分的なリフォーム」の意向が高いことがわかります。

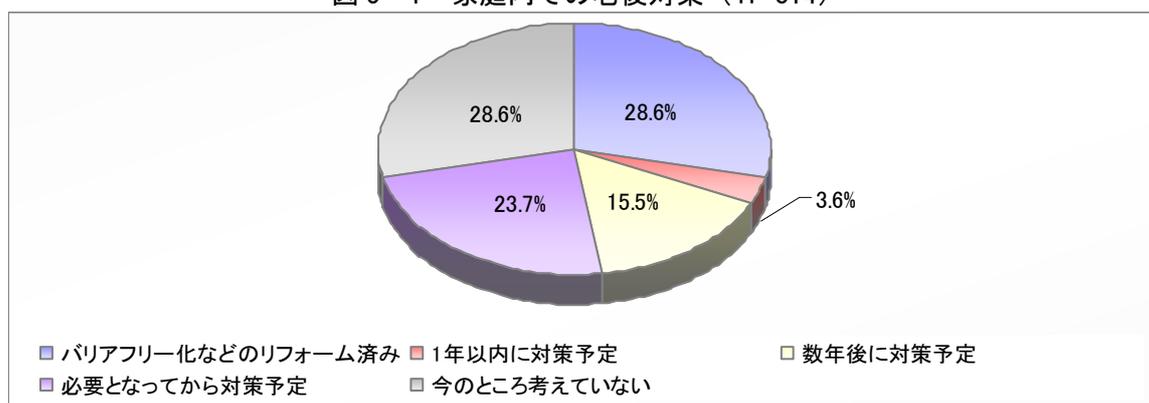
図 2-3 年代別にみる自宅で安心して過ごすために必要なこと（n=814）



3.1 家庭内での老後対策 —「バリアフリー化などリフォーム済み」が28.6%—

- ◇ 「自宅派」の方のみ、「家庭内で老後の対策をされていますか？」と質問したところ、「バリアフリー化などのリフォーム済み」が28.6%と、既に対策済みの家庭が1/4以上いることがわかりました。
- ◇ また、「今のところ考えていない」も同じく28.6%と、回答割合が高くなっています。

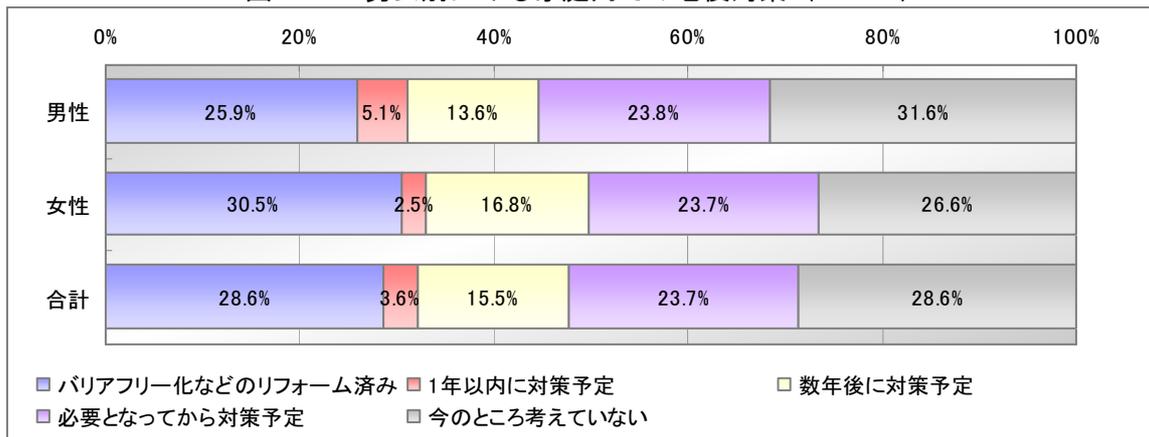
図 3-1 家庭内での老後対策（n=814）



3.2 男女別にみる家庭内の老後対策 —女性で多い「リフォーム済み」—

- ◇ 男女別に家庭内での老後の対策状況を見ると(図3-2)、「リフォーム済み」の回答項目において、男性(25.9%)に比べ女性(30.5%)の方が4.6ポイント高くなっています。反対に、「今のところ考えていない」の回答項目でみると、女性(26.6%)に比べ、男性(31.6%)が5.0ポイント高い数値を示しました。

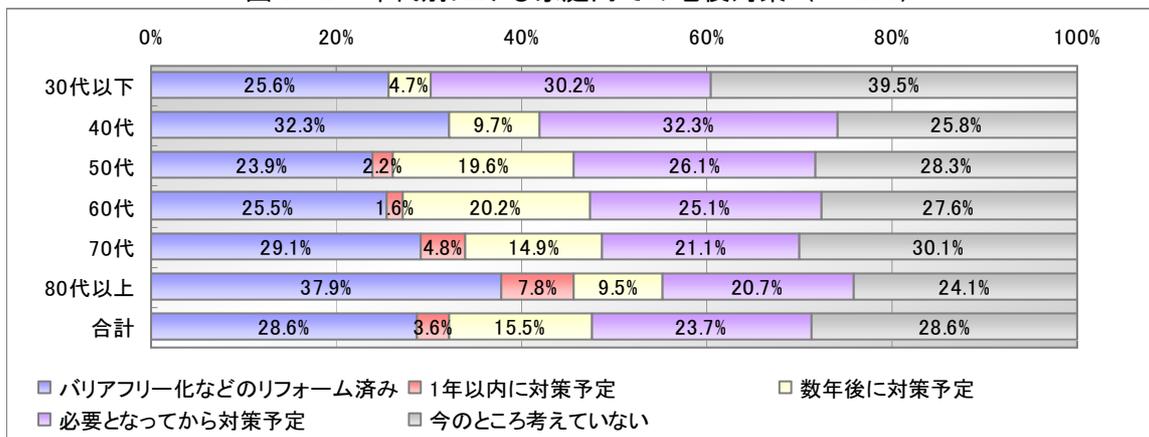
図3-2 男女別にみる家庭内での老後対策 (n=814)



3.3 年代別にみる家庭内の老後対策 —高齢者ほどリフォーム意向高い—

- ◇ 年代別に家庭内での老後対策をみた場合には(図3-3)、80代以上の「リフォーム済み」(37.9%)が、他の年代に比べて割合が多いことがわかります。
- ◇ 「1年以内に対策予定」の回答項目でみた場合には、80代以上で7.8%、70代が4.8%、60代が1.6%と、年代が高くなるにつれ、回答割合が多くなっていることがわかります。
- ◇ 「必要となってから対策予定」の項目でみた場合には、40代(32.3%)での回答割合が多く、年代が高くなるにつれて回答割合が少なくなる傾向が見て取れました。

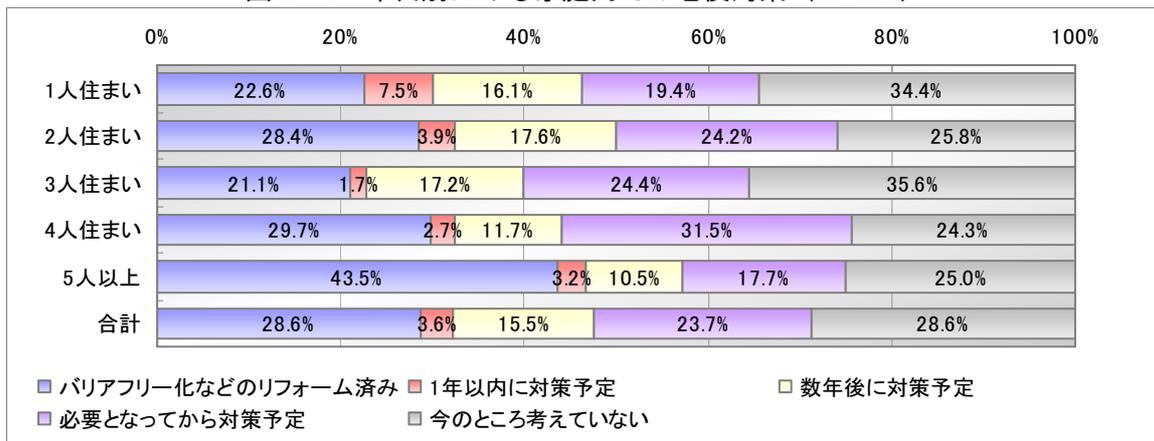
図3-3 年代別にみる家庭内での老後対策 (n=814)



3.4 世帯人数別にみる家庭内の老後対策 一 家族世帯で高い「対策済み」

- ◇ 世帯人数別に家庭内での老後対策をみた場合には（図3-4）、5人以上世帯の「リフォーム済み」（43.5%）が、最も多くなっていることがわかります。
- ◇ また、「1年以内に対策予定」の回答項目でみた場合には、1人住まい（7.5%）で他の世帯に比べて回答割合が多くなっており、単身世帯でバリアフリーなどの対策に迫られている状況がうかがえます。

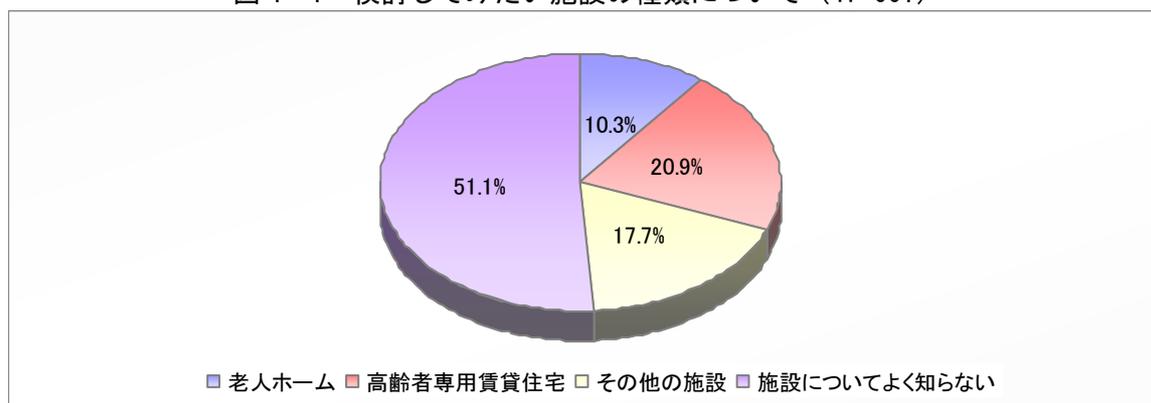
図3-4 年代別にみる家庭内での老後対策（n=814）



4.1 検討してみたい施設の種類について —「よく知らない」が半数以上—

- ◇ 「施設派」の方にも、「検討してみたい施設の種類はどれですか？」と質問したところ、「施設についてよく知らない」という回答が51.1%と、最も多くなりました。
- ◇ その他の回答項目でみると、「高齢者専用賃貸住宅」(20.9%)という回答が多く、続いて「その他の施設」が17.7%、「老人ホーム」が10.3%という結果となっています。「高専賃」と「老人ホーム」で比べた場合には、「高専賃」の方が10.6%高い割合を示しました。

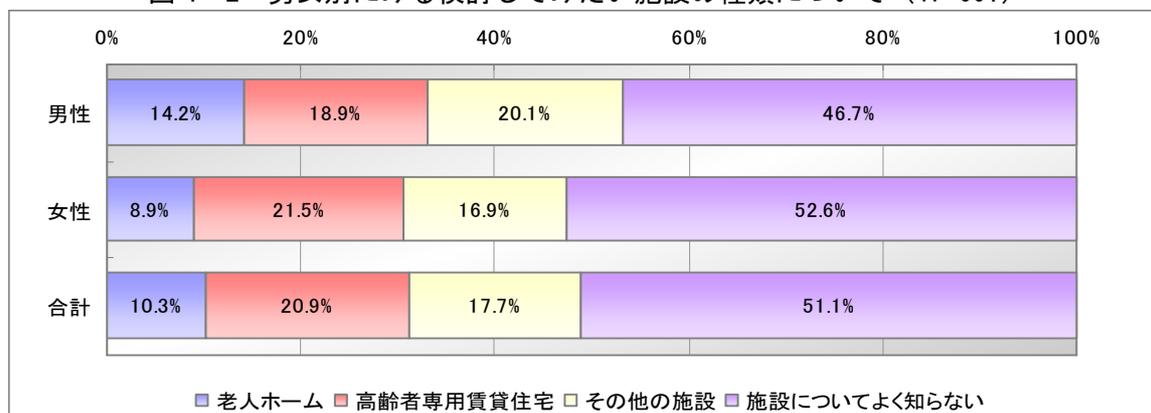
図4-1 検討してみたい施設の種類について (n=661)



4.2 男女別にみる検討施設 —女性は「老人ホーム」よりも「高専賃」—

- ◇ 男女別に検討してみたい施設の種類をみた場合には(図4-2)、男性の「老人ホーム」(14.2%)が、女性(8.9%)に比べて5.3ポイント高くなっていることがわかります。反対に、「高齢者専用賃貸住宅」の回答項目で見た場合には、男性(18.9%)に比べ、女性(21.5%)が2.6ポイント高くなっています。これより、男女間で施設の種類について、志向が異なることがわかります。
- ◇ また、女性の「施設についてよく知らない」(52.6%)が、男性(46.7%)に比べ5.9ポイント高い結果となりました。

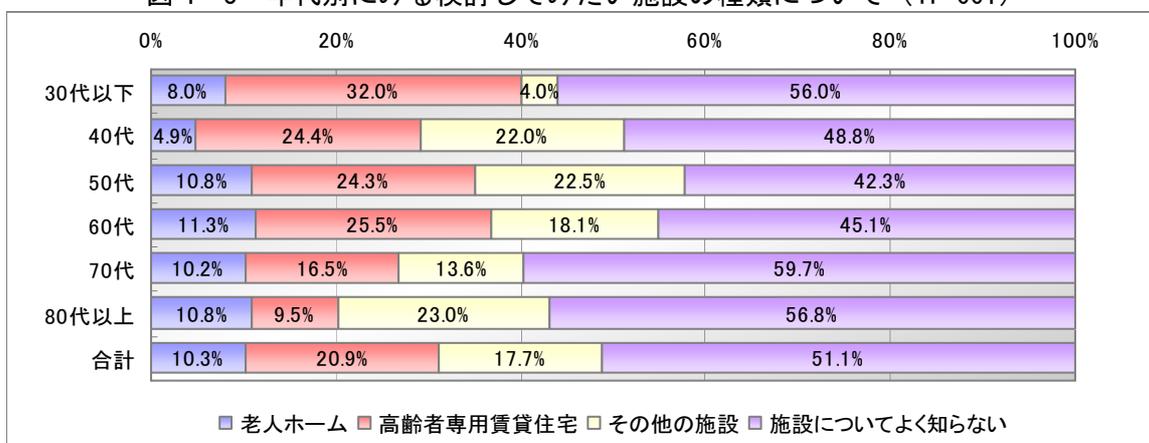
図4-2 男女別にみる検討してみたい施設の種類について (n=661)



4.3 年代別にみる検討施設 — 高齢世代で多い「施設についてよく知らない」

- ◇ 年代別に検討してみたい施設の種類についてみると（図4-3）、70代において、「施設についてよく知らない」（59.7%）の回答割合が最も多くなっていることがわかります。続いて、30代以下が56.0%、80代以上が56.8%となっています。これより、30代以下では施設についての関心が薄く、高齢世代では、施設についての情報が不足している状況がうかがえます。
- ◇ 「高齢者専用賃貸住宅」の回答項目でみた場合には、30代以下で32.0%と最も多い回答割合を示し、80代以上で9.5%と最も低い割合を示しました。全体的に、年代が高くなるにつれ「高専賃」の検討意向が低くなっていることが見て取れます。

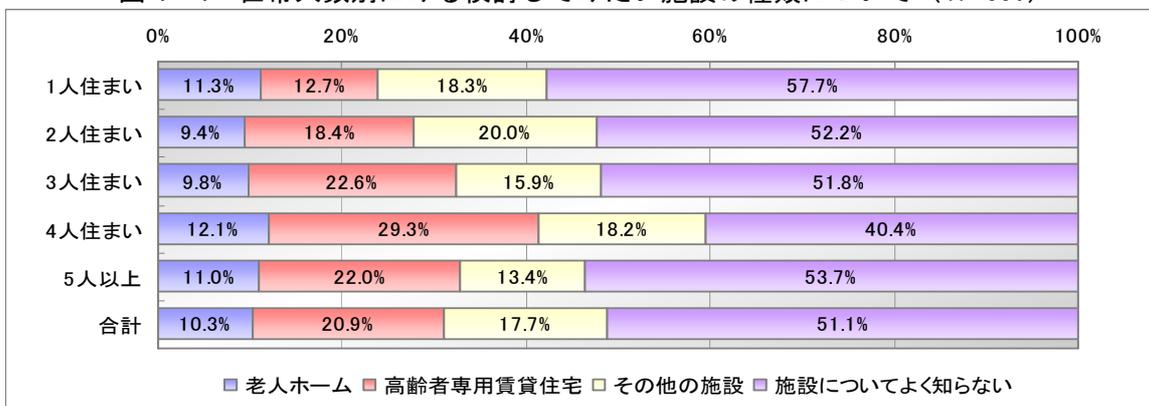
図4-3 年代別にみる検討してみたい施設の種類について（n=661）



4.4 世帯人数別にみる検討施設 — 単身世帯で情報不足感

- ◇ 世帯人数別に検討施設をみると（図4-4）、1人住まいでの「よく知らない」（57.7%）が最も多く、単身世帯ほど情報量が少ないことをうかがえます。
- ◇ 4人住まいでは、「老人ホーム」（12.1%）、「高専賃」（29.3%）の回答割合が多くなっています。

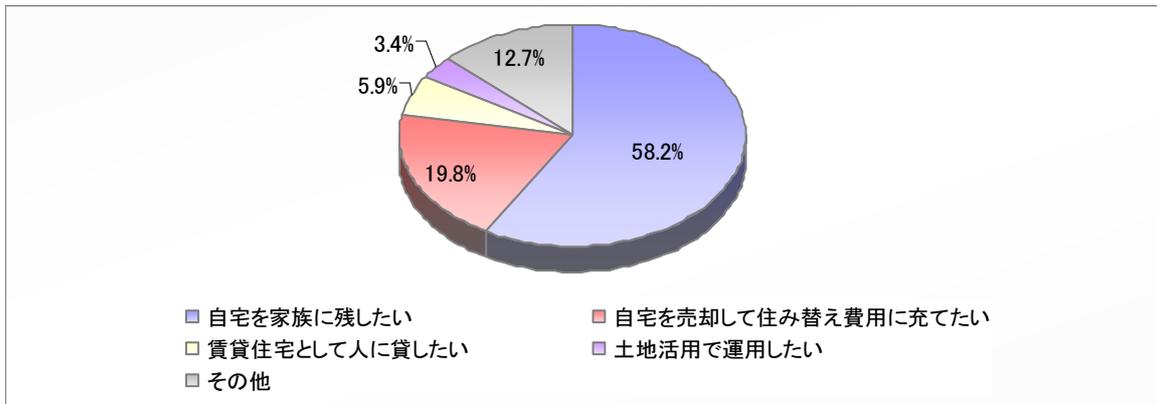
図4-4 世帯人数別にみる検討してみたい施設の種類について（n=661）



5.1 住み替え時の自宅活用方法 —「自宅を家族に残したい」が58.2%—

- ◇ 検討してみたい施設の種類のについて、「施設についてよく知らない」以外の回答をした方に対してのみ、「住み替えするとしたら、現在のお住まいをどうされますか？」と質問した結果（図5-1）、「自宅を家族に残したい」が58.2%と、最も割合が多くなりました。
- ◇ また、「自宅を売却して住み替え費用に充てる」という回答が19.8%、「賃貸住宅として人に貸したい」が5.9%、「土地活用で運用したい」が3.4%と、「自宅を残さない」という意向が全体の29.1%を占める結果となりました。

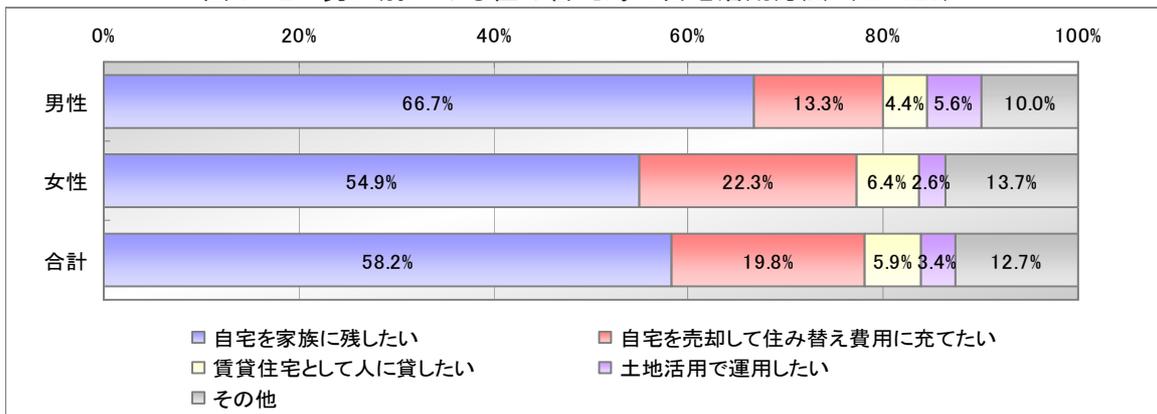
図5-1 住み替え時の自宅活用方法（n=323）



5.2 男女別にみる自宅の活用方法 —男性は「自宅」依存度が高い？—

- ◇ 男女別に住み替え時の自宅の活用方法をみた場合には（図5-2）、男性の「自宅を家族に残したい」（66.7%）が、女性（54.9%）に比べ11.8ポイント高い数値を示しました。
- ◇ 「自宅を売却して住み替え費用に充てたい」の回答項目でみると、男性（13.3%）に比べ、女性（22.3%）が9.0ポイント高くなっています。『男女別にみる介護時の住まい』（図1-2より）の結果からみても、男性が自宅にこだわりを持っている状況がうかがえます。

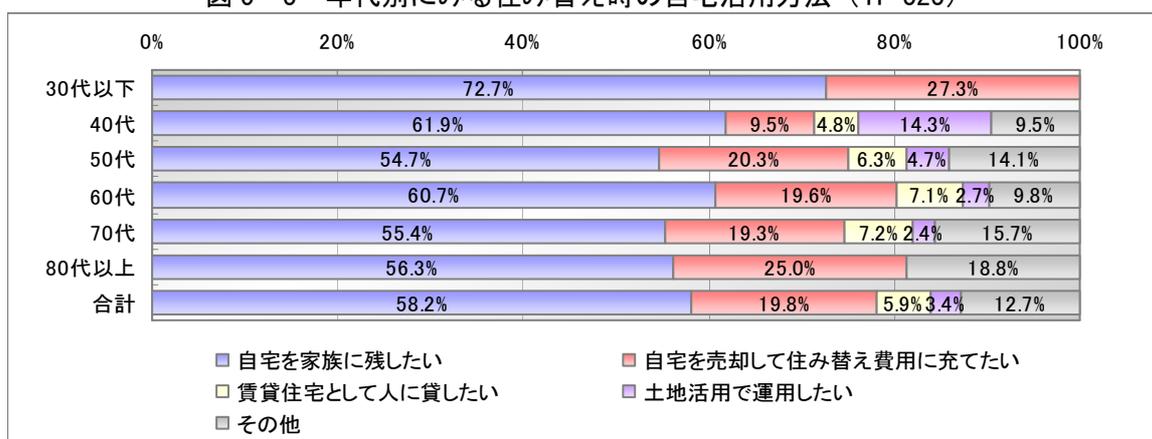
図5-2 男女別にみる住み替え時の自宅活用方法（n=323）



5.3 年代別にみる自宅の活用方法 — 中年層ほど高い自宅相続意向 —

- ◇ 年代別に自宅の活用方法をみると（図 5-3）、30 代以下において「自宅を家族に残したい」が 72.7%と、最も多い割合を示していることがわかります。全体的に、高齢世代に比べ、中年層での「自宅を家族に残したい」という意向が強い傾向を見て取れます。
- ◇ また、40 代での「土地活用で運用したい」が 14.3%と、他の年代に比べて割合が多くなっていることがわかります。

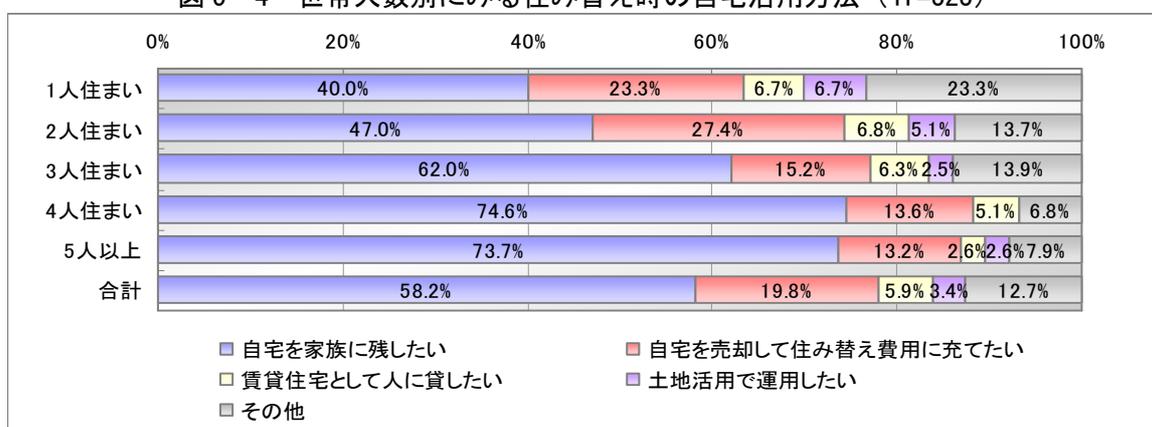
図 5-3 年代別にみる住み替え時の自宅活用方法（n=323）



5.4 世帯人数別にみる自宅の活用方法 — 単身世帯で低い自宅相続意向 —

- ◇ 世帯人数別に自宅の活用方法をみると（図 5-4）、4 人住まいで「自宅を家族に残したい」が 74.6%、5 人以上世帯で 73.7%と、家族世帯ほど「自宅を残したい」という意向が強いことがわかります。反対に、同居家族の居ない単身世帯では、「自宅を残したい」（40.0%）という回答が少なくなっています。

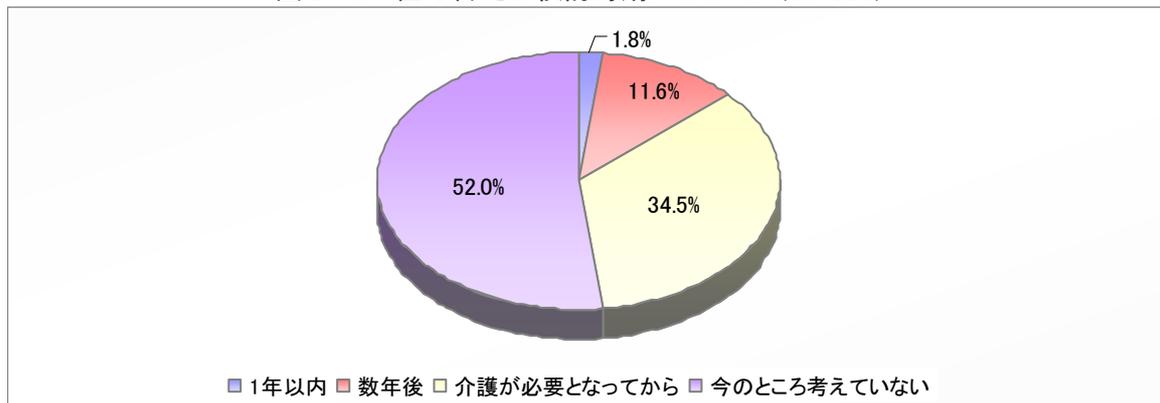
図 5-4 世帯人数別にみる住み替え時の自宅活用方法（n=323）



6.1 住み替えの検討時期について —「今のところ考えていない」が過半数—

- ◇ 住み替えを検討している方にも、「住み替えを検討する時期はいつ頃ですか？」と質問したところ（図6-1）、「1年以内」が1.8%、「数年後」が11.6%、「介護が必要となってから」が34.5%となり、「今のところ考えていない」が過半数を超える結果となりました。

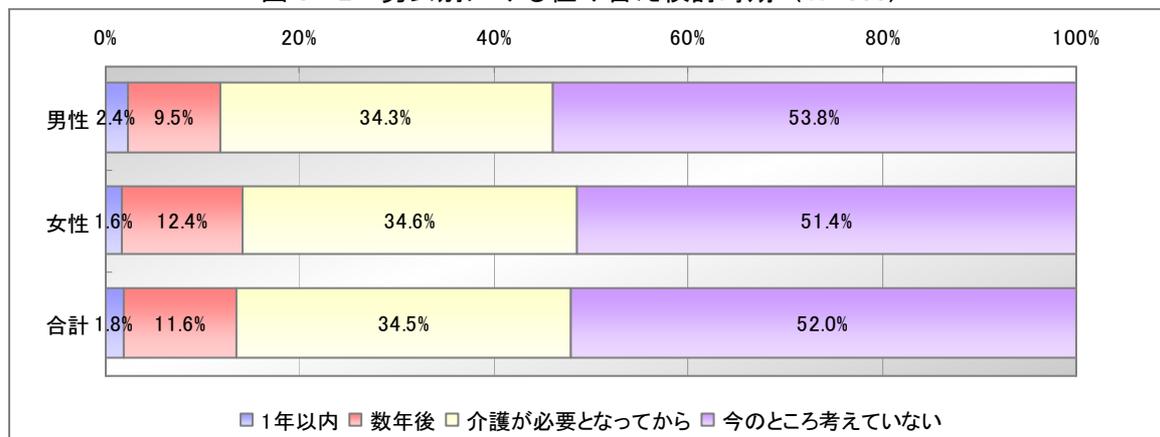
図6-1 住み替えの検討時期について（n=661）



6.2 男女別にみる住み替え検討時期 —女性の方が検討時期早い？—

- ◇ 男女別に住み替えの検討時期をみた場合には（図6-2）、男性の「1年後」（9.5%）に比べ、女性（12.4%）が2.9ポイント高い数値を示しました。
- ◇ 「今のところ考えていない」の回答項目でみた場合には、男性が53.8%、女性が51.4%と、男性の方が2.4ポイント高い結果となりました。

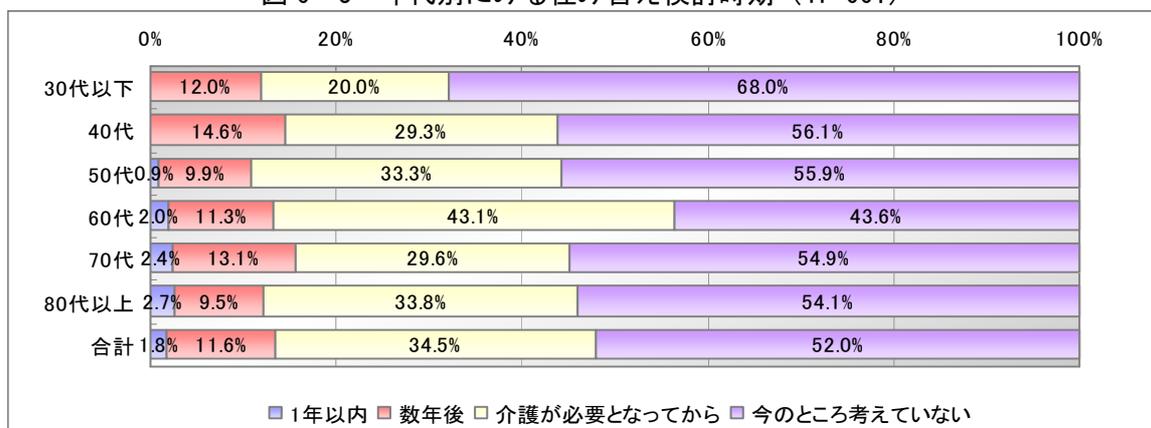
図6-2 男女別にみる住み替え検討時期（n=661）



6.3 年代別にみる住み替え検討時期 —60代で多い「必要となってから」—

- ◇ 年代別に住み替えの検討時期をみると（図6-3）、30代以下において「今のところ考えていない」が68.0%と最も割合が多く、まだ住み替えを意識していないことが見て取れます。
- ◇ 「介護が必要となってから」の回答項目でみると、60代（43.1%）での回答割合が最も多く、介護間近の世代の特徴が現れているようです。
- ◇ また、「1年以内」の回答割合は少ないものの、年代が高くなるにつれ、回答割合も増加傾向にあることが読み取れます。

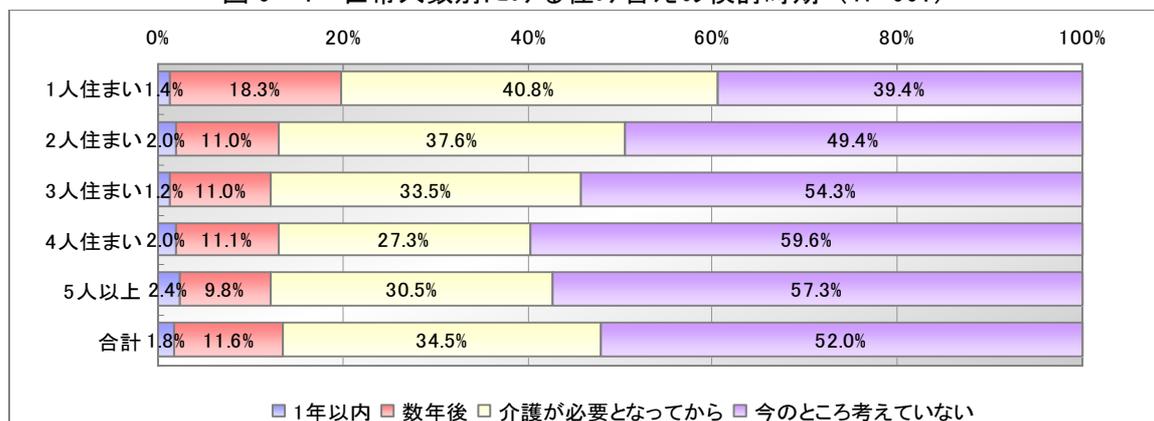
図6-3 年代別にみる住み替え検討時期（n=661）



6.4 世帯人数別にみる住み替え検討時期 —単身世帯は検討に積極的？—

- ◇ 世帯人数別に住み替えの検討時期をみると（図6-4）、4人住まいで「今のところ考えていない」が59.6%と、最も回答割合が多くなっています。
- ◇ 「数年後」の回答項目でみた場合には、1人住まい（18.3%）での回答割合が多く、家族世帯ほど「数年後」の回答割合が少なくなっていく傾向が見て取れます。単身世帯では同居家族が居ない不安から、検討時期が早まっている状況を推測できます。

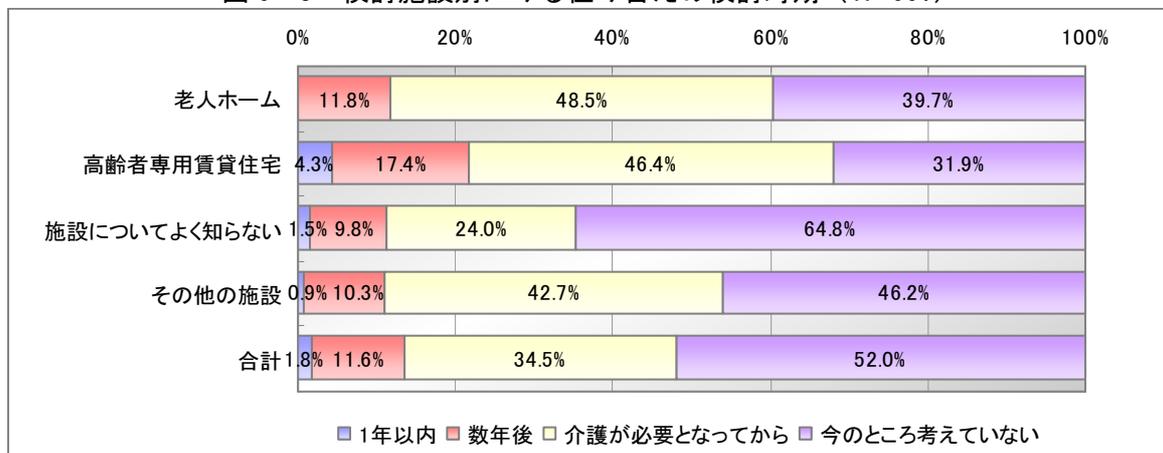
図6-4 世帯人数別にみる住み替えの検討時期（n=661）



6.5 検討施設別にみる住み替え検討時期 —施設情報が検討時期に影響—

- ◇ 検討施設別に住み替えの検討時期をみた場合には（図 6-5）、「高齢者専用賃貸住宅」において、「1年以内に検討」（4.3%）、「数年後に検討」（17.4%）が、他の施設に比べて回答割合が多くなっていることがわかります。
- ◇ 「今のところ考えていない」の回答項目でみた場合には、「施設についてよく知らない」（64.8%）という世帯の回答割合が最も多くなりました。これより、施設情報の保有状況が検討時期に影響を与えていることがわかります。
- ◇ また、「老人ホーム」を検討している世帯では、「介護が必要となってから」（48.5%）の回答割合が多くなっていることがわかります。

図 6-5 検討施設別にみる住み替えの検討時期（n=661）



会社概要

株式会社ジー・エフは、独自開発した「自動テレマーケティングシステム」(アウトバウンド IVR) を活用し、インターネットやモバイルだけではカバーしきれない『シニア』を対象としたマーケティング手法・情報を提供しております。

商号 株式会社ジー・エフ
資本金 50,000 千円
設立 2008 年 6 月 2 日
代表者 代表取締役社長 岡田 博之
本社 〒112-0012 東京都文京区大塚三丁目 20 番 1 号 吉田ビル
U R L <http://www.gf-net.co.jp> (コーポレートサイト)
<http://www.senior-promo.com/> (シニアマーケティング支援サイト)
<http://kurasino.jp/> (シニア向け生活情報サイト)

事業内容

- ・シニアマーケティングサービス事業
- ・シニア向け情報誌「くらしの情報局」の企画・発行
- ・シニア向け生活サービス情報提供事業
- ・各種世論調査、市場調査、マーケティングリサーチ
- ・CSR 支援サービス業務
- ・自動テレマーケティングシステムの開発・販売
- ・情報通信システムを活用したマーケティング代行
- ・コールセンター事業の運営・サポート

株主 日本アジアグループ株式会社 (純粋持ち株会社)

- ・本社 東京都千代田区丸の内二丁目 3 番 2 号 郵船ビル 5 階
- ・資本金 600,350 千円
- ・設立 1988 年 3 月
- ・上場先 東京証券取引所マザーズ上場 (銘柄コード : 3751)
- ・U R L <http://www.japanasiagroup.jp/>

【本調査に関するお問い合わせ先】

株式会社ジー・エフ シニアリサーチ担当
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-20-1 吉田ビル
TEL:03-5978-2261 FAX:03-5978-2260
E-mail:webmaster@gf-net.co.jp